



プレスリリース 2006年12月14日：

国際青年環境 NGO A SEED JAPAN がメガバンクのCSRを調査  
環境融資枠は設定されつつも規模が課題、環境基準の導入も部分的

国際青年環境 NGO A SEED JAPAN エコ貯金プロジェクトでは、メガバンクのCSRへの取り組みがどの程度進捗しているか、各行の公表資料をもとに評価を行いました。

その結果、

**環境配慮事業への融資枠は各行で整備されつつあるが、総融資額から見てその割合は非常に微小であり、今後の大幅な拡大が望まれる**

**プロジェクト融資の環境配慮基準は整備されつつも企業融資では未整備であり、今後は企業への投融资においても明確な環境配慮基準の導入が必要である**

**NPO等の社会的事業への融資が不足している**

ことがわかりました。

国際青年環境 NGO A SEED JAPAN エコ貯金プロジェクトでは、2005年4月に「環境・社会配慮に関するメガバンクへの10の提言」を発表し、国際業務を行う主要都市銀行に対して、CSRビジョンの導入、環境・社会影響の深刻な事業へ融資を行わない融資基準（ネガティブスクリーニング）の導入などを求めています。これらは、海外の先進的な銀行であればすでに導入している仕組みです。

提言から1年半を経て、A SEED JAPAN ではこの10提言に基づき、メガバンクのCSRへの取り組みがどの程度進捗しているか、各行の公表資料をもとに、提言の項目別に0~3点の4段階評価を行いました（合計30点満点の評価）。その結果、2005年以降メガバンクの環境金融への取り組みは一定程度進捗しているものの、環境配慮基準の導入が部分的である、NPOなどが行う社会的事業への融資が不足している等、その取り組みはまだ不十分と言わざるを得ないものでした。

評価結果の詳細については、別添資料をご参照ください。

なお、今回の評価結果について、エコプロダクツ2006のエコプレゼンテーションステージにて、12月16日（土）16:20~に発表を行う予定です。

本プレスリリースに関する問い合わせ先

国際青年環境 NGO A SEED JAPAN（担当：鈴木、土谷）

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-23

TEL 03-5366-7484 FAX 03-3341-6030

E-mail: [info@aseed.org](mailto:info@aseed.org)

URL: <http://www.aseed.org/> (A SEED JAPAN)

【別添資料】

メガバンク3行のCSR進捗度評価結果

	三菱 UFJ FG	みずほ FG	三井住友 FG
CSRの進捗度	8 / 30	7 / 30	5 / 30
評価点			

評価の方法

各項目について、以下の基準で4段階評価を行いました。

各項目の評 価点	内容
0点	公表資料において取り組みの記載がなされていない
1点	取り組みを行っているがその内容が不十分、あるいは対象が限定的
2点	取り組みを行っており、一定程度進んでいると判断される
3点	環境・社会における問題解決および持続可能な社会づくりに向けて主導的な取り組みをしていると判断される

各項目の評価結果一覧

項目	三菱 UFJ FG	みずほ FG	三井住友 FG	評価ポイント
1.「環境と持続可能な発展に関する金融機関声明 (UNEP-FI)」への署名と実施	2004年に署名。2005年に旧東京三菱銀行内にCSR室設置。 [2点]	2006年に署名。2005年にCSR委員会設置。 [2点]	2002年に署名。2005年グループCSR委員会、2006年グループCSR室設置。 [2点]	UNEP - FI と赤道原則への署名に関しては、各行ともに取り組みが進んでいる。赤道原則については、みずほ FG は赤道原則にもとづくスクリーニング実施状況を公表するなどより積極的な姿勢を打ち出しており、評価できる。
2.「赤道原則 (Equator Principle)」への署名と実施	2005年に署名。 [1点]	2003年に署名。赤道原則にもとづくスクリーニング実施状況を公表。 [2点]	2005年に署名。 [1点]	

項目	三菱 UFJ FG	みずほ FG	三井住友 FG	評価ポイント
3 融資したエネルギー関連事業の温室効果ガス排出量の公表	環境配慮型事業に限定しているものの、環境配慮融資における温室効果ガス削減量を公表。 【1点】	記載なし。 【0点】	記載なし。 【0点】	三菱 UFJFG は 2006 年度の CSR レポートにおいて環境融資事業の詳細（CO2 排出量の削減量等）を公開しており、他行と比較して公表に向けた取り組みが進んでいると判断される。ただし、環境融資事業に関する削減量のみ公表であり、今後はエネルギー関連事業全体について排出量の総量を公表し、それに対してどれだけ削減できているかを検証することが求められる。
4. 自然エネルギー関連事業への融資目標の設定およびその達成状況の公表	「環境ファンド」として国の補助金事業を対象に3年間で総額 1,000 億円の融資を目標とする。CSR レポートによれば環境融資室関与案件で 2004、2005 年度に風力発電へ約 150 億円を融資。 【2点】	CSR レポートによれば、2004、2005 年度のみずほコーポレート銀行が風力発電（国内案件）へ約 70 億円を融資。融資目標の設定に関する記述はない。 【1点】	北九州市響灘地区の風力発電事業に協調融資をアレンジ。融資目標の設定に関する記述はない。 【1点】	三菱 UFJFG は「環境ファンド」の目標額、および環境融資の融資額を公表しており、他行と比べて取り組みが進んでいると判断される。しかしいずれの行においても、環境配慮型の融資額は総融資額に対してごくわずかであり、今後の取り組みの拡大が求められる。
5. 違法伐採・原生林伐採に関与する事業・企業への融資をおこなわないこと	記載なし。 【0点】	記載なし。 【0点】	記載なし。 【0点】	この3項目に関してはプロジェクト融資においては赤道原則である程度配慮されているものの、企業融資では配慮しているかどうか明確でない。また、「原生林伐採に関与する事業・企業への融資をおこなわない」等の融資基準の策定については、どのメガバンクも取り組みが進んでいない。たとえば、原材料として原生林伐採のチップを用いている製紙会社への投融資の状況などについて情報を公開するべきである。
6. 保護地域内における生態系を改変する事業・企業に融資をおこなわないこと	記載なし。 【0点】	記載なし。 【0点】	記載なし。 【0点】	
7. 国際的な労働基準に違反する事業・企業に融資をおこなわないこと	記載なし。 【0点】	記載なし。 【0点】	記載なし。 【0点】	

項目	三菱 UFJ FG	みずほ FG	三井住友 FG	評価ポイント
8.ネガティブスクリーニングを導入した社会的責任投資ファンドの開発・販売	ネガティブスクリーニング型社会的責任投資ファンドは開発・販売していない。 【0点】	ネガティブスクリーニング型社会的責任投資ファンドは開発・販売していない。 【0点】	ネガティブスクリーニング型社会的責任投資ファンドは開発・販売していない。 【0点】	ネガティブスクリーニングを導入・明記した社会的責任投資ファンドの開発・販売については、どのメガバンクも取り組んでいない。
9.社会的事業への融資優遇制度の導入	2005 年、ISO14001 や環境省の「エコアクション 21」の認証・登録を受けた企業向けに金利を年 0.5% 優遇する融資商品を開発。また米国においてマイクロファイナンスの取り組みを進めている。 【1点】	2005 年末から中小企業向けに無担保で貸し出す環境融資を開始。環境に配慮した経営を目指す企業に対し、環境認証がなくても融資。 【1点】	2006 年「環境配慮企業支援ローン」の取り扱いを開始。環境に対する意識が高い中小企業に対し、優遇金利で貸し出しを行う。 【1点】	中小企業への環境配慮型の融資優遇はあるものの、NPO やコミュニティビジネスへの投融資の取り組みはなされていない。今後、リスクを分散できるメガバンクの特性を活かし、これらの分野への積極的な取り組みが求められる。
10.環境・社会配慮に関する取り組みなどの公表	2005 年度に東京三菱銀行が、2006 年度にはグループ全体として CSR レポートを公表。ただし、今後の課題に対する記述が不足している。 【1点】	2005 年度、2006 年度にグループ全体として CSR レポートを公表。ただし、今後の課題に対する記述が不足。 【1点】	CSR レポートを公表していない。CSR への取り組みを WEB 上で公表している (CSR レポートは 2006 年 12 月に公表予定とのこと)。 【0点】	CSR レポートが公開されていても今後の課題に関する記述が十分ではなく、より一層充実したレポートの作成が求められる。

(注) 本表は、2006 年 11 月時点の各メガバンクの CSR レポートを中心とした公表情報およびニュース等をもとに、A SEED JAPAN が作成したものである。

また各項目の取り組み事例は中心的と考えられるもののみを取り上げており、すべてを網羅するものではない。

(注) メガバンクへの 10 提言については以下の URL をご参照ください。 URL: <http://www.aseed.org/ecocho/resource/10suggestions.html>